

■土岐善麿 ローマ字短歌が石川啄木を触発、戦時下に膨大な「田安宗武」論、戦後は国字改革、図書館運動など貢献。

ときぜんまる

内閣発足・・・1885 = 東京東浅草松清町の真宗大谷派等光寺で、学僧土岐善静の次男に生まれる。母は観世(みよ)。

帝国憲法発布1889 = 4歳：

日清戦争始・・・1894 = 9歳：

Bushidou・・・1899 = 14歳：東京府立第一中学校に入学。

日比谷公園・・・1903 = 18歳：東京府立一中在学中、金子薫園選の{新声}歌壇に投稿、
日露戦争始・・・1904 = 19歳：卒業し、_早稲田大学文学部英文科に入学。同級の若山牧水らと交流し、
日露戦争終・・・1905 = 20歳：満鉄発足・・・1906 = 21歳：父が死去。

アヲヱ'創刊・・・1908 = 23歳：薫園の{白菊会}に参加、窪田空穂の{まひる野}で作歌に開眼。
伊藤博文暗殺1909 = 24歳：卒業し、{読売新聞社}に入社、社会部記者となる。このころから哀果と号する。
韓国併合・・・1910 = 25歳：中村鷹子と結婚し、下谷区に住む。
大逆事件判決1911 = 26歳：*第1歌集「NAKIWARAI」に、社会的関心を潜めた日常生活の哀感をローマ字3行書きで歌って歌壇の注目を集め、この縁でローマ字運動に参加、{ローマ字世界}の編集に従事、日本ローマ字会理事となる。
明治天皇没・・・1912 = 27歳：わけても影響を与えた石川啄木に初めて会い、共同で社会思想啓蒙の雑誌発刊を志したが、
大正政変・・・1913 = 28歳：「黄昏に」。_啄木が死去。葬儀を等光寺で行い、以後、遺族を助け、啄木を世にだすことに尽力。
21ヶ条要求・・・1915 = 30歳：読売新聞特派員として、満州・朝鮮を視察。_啄木の遺志をつぐべく文芸思想誌{生活と芸術}を創刊。
民本主義・・・1916 = 31歳：「作者別万葉短歌全集」刊行。_ {生活と芸術}廃刊、

本格政党内閣1918 = 33歳：{読売新聞}を退社し、_ {東京朝日新聞社}に入社。

大暴落・・・1920 = 35歳：「啄木全集」全3巻完結。

原敬首相暗殺1921 = 36歳：

関東大震災・・・1923 = 38歳：震災で、自宅を罹災焼失し、
護憲三派圧勝1924 = 39歳：下目黒に転居。_ {日光}に参加、

円本時代始・・・1926 = 41歳：調査部長になると、さらに読者に近づくべく、記事索引や新著紹介など載せた{読書標}を発刊し贈呈。
金融恐慌・・・1927 = 42歳：東京朝日新聞特派員としてジュネーブの世界海軍軍縮会議に出張し、欧米各地を巡遊。
共産党事件・・・1928 = 43歳：日本エスプラント学会理事となる。

海軍軍縮条約1930 = 45歳：

満州事変・・・1931 = 46歳：

帝人疑獄事件1934 = 49歳：{読書標}はこの年まで続いた。_東京朝日新聞論説委員。日本放送協会放送用語並発音改善調査委員、

日中戦争始・・・1937 = 52歳：

第二次大戦始1939 = 54歳：

大政翼賛会・・・1940 = 55歳：歌集「六月」。_ {東京朝日新聞社}を定年退職し、社友。日本放送協会囑託、用語調査顧問になる。

日米開戦・・・1941 = 56歳：_以後、田安宗武研究に没頭し、

敗戦・・・1945 = 60歳：空襲で下目黒の自宅焼失。
新憲法公布・・・1946 = 61歳：「田安宗武」全4冊をまとめ、
新憲法施行・・・1947 = 62歳：*帝国学士院賞。第一次国語審議会臨時委員。窪田空穂の後任として、早稲田大学文学部講師となる。
極東裁判判決・・・1948 = 63歳：大谷大学講師として、以後年5回、京都で集中講義。_論文「田安宗武」で文学博士。改組国語審議会委員、国
立国語研究所評議員から、

三大事件・・・1949 = 64歳：国語審議会会長となり、戦後の国字改革に尽力。
朝鮮戦争始・・・1950 = 65歳：「図書館法」が制定されたのに伴い、
独立回復・・・1951 = 66歳：東京都立日比谷図書館館長になると、自ら講習を受けて司書資格を得、東京都図書館協会会長にもなる。
メデー'事件・・・1952 = 67歳：早稲田大学で大学院も担当。以後10年、ユネスコ国内委員。*日本図書館協合理事長にも就任し、戦災受けた日比谷図書館の再建を軌道に乗せ、「日本目録規則」「基本件名標目表」刊行させる一方、100近い小中高校の校歌を作詞、

自衛隊発足・・・1954 = 69歳：英文の能の解説書「Japanese No plays」出版、{杜甫を読む会}を始めるなど、日中の文化啓蒙にも尽力、
55年体制始・・・1955 = 70歳：歌集「早稲田抄」。_日本芸術院会員。新日比谷図書館が起工すると、古稀を理由に自ら館長の職を退き、
国連加盟・・・1956 = 71歳：早稲田大学講師は定年退職。
なべ底不況・・・1957 = 72歳：「土岐善麿～ことは随筆」。日本図書館協合理事長も辞任。日比谷図書館新築落成式に招かれる。
イヌカトラーマ・・・1958 = 73歳：大連作歌集「歴史の中の生活者」。
美智子妃・・・1959 = 74歳：日本図書館協会顧問となる。
安保闘争・・・1960 = 75歳：5期11年間勤めた国語審議会会長を退任。中国文字改革学術視察団の団長として中国を訪問。東京都立日比谷図書館協議会議長就任し、以後、「図書館の図書館」の役目を果たす都立中央図書館の実現に尽力、

東京リボル'ッ 1964 = 79歳：日中文化交流協会代長団の団長として、北京における建国十五周年国慶節祝典に参列。
大学紛争始・・・1965 = 80歳：武蔵野女子大学文学部日本文学科主任教授に招かれ、
いざなぎ景気1966 = 81歳：
全共闘'ー' 1969 = 84歳：武蔵野女子大学・武蔵野女子短期大学に司書・司書教諭課程を開設にも関与、履修者を引率し、当時先端を行くとされた武蔵野市立図書館を見学させるなどして、

日中国交回復1972 = 87歳：短歌や小論、随筆載せる雑誌{周辺}を発刊、
石油ショック1973 = 88歳：有栖川公園に、_都立中央図書館が開館。以後、都内市区町村に次々図書館が開館して行くのを見ながら、
革新大敗北・・・1979 = 94歳：武蔵野女子大学を退職し、
貿易摩擦問題1980 = 95歳：*最後まで雑誌{周辺}を続けて、没した。
「土岐善麿と図書館」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、